

ひだかもんべつ

# 日高門別川水系河川整備基本方針

平成 1 7 年 3 月

北 海 道

# 目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 流域の概要	1
(2) 治水の現況	1
(3) 河川の利用の現況	2
(4) 流域の自然環境	2
(5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	3
2. 河川の整備の基本となるべき事項	5
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	5
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	5
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る 川幅に関する事項	6
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため 必要な流量に関する事項	6
(参考図)	
日高門別川水系流域概要図	7

# 1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

## (1) 流域の概要

日高門別川は、北海道沙流郡門別町ひだかもんべつがわの中西部に位置する標高 337mの山に源を発生し、多数の小支川と合流しながら門別町の中心部を貫流して、門別町字本町市街地ほんちょうで太平洋に注いでいる流域面積 99.8km<sup>2</sup>、幹川の流路延長 31.1kmの二級河川である。

河川名の由来は、一説によると、アイヌ語のモ・ペツ (Mo-pet 静かな・川) の意と言われているおり、流域内には「ライコマナイ遺跡」をはじめ、アイヌ文化を知ることが出来る貴重な遺跡が多数存在している。

日高門別川の流域は、門別町で占められ、日高山脈が有する良好な自然環境に恵まれている。土地利用は、流域の約 60%が山林であり、中下流の狭小な谷底平野を利用して日高地方の主要な産業である軽種馬の生産が行われ、多くの優駿を輩出しているほか、水田・畑などの耕作地としても利用されている。流域内には農業の取水施設、国道 235 号、JR 日高線などの重要施設があり、河口部には流域の中心である門別町字本町市街地を抱えており、「治水」・「利水」・「環境」に関して日高門別川流域が持つ意義は極めて大きい。

## (2) 治水の現況

日高門別川の治水は、局所的な河道整備を除き、大部分は自然河道のままで断面が小さく、蛇行を繰り返していたため、台風や集中豪雨の際には容易に氾濫し、下流域の門別町市街地を始め、農耕地・軽種馬生産に係わる施設などに大きな被害を与え、住民の生活を常に脅かし続けてきた。特に平成4年8月に日高地方を襲った台風10号により流域内で浸水家屋23戸、農耕地冠水67haにおよぶ大きな被害が発生した。この災害を契機として改修に対する住民の要望が高まり、平成5年から河川改修に着手し、堤防の新設や河道の掘削などの河川改修を行い平成13年に下流域の市街地区間が完成している。しかし、その後も平成13年9月の台風15号により、中流域の農耕地89haが冠水する被害が発生し、更に平成15年8月の台風10号では床下浸水8戸、床上浸水1戸、浸水面積192haにおよぶ大きな水害が発生しているため早期の治水安全度の向上が火急の課題となっている。

### (3) 河川の利用の現況

河川水の利用については、農業用水として437haに及ぶ耕地でかんがいに利用されている。

また、河川空間の利用としては、河口付近や下流市街地区間において釣りが行われ、既改修区間では散策路として利用されているほか、中上流域の川沿いの放牧地においては、サラブレッドが颯爽と駆ける姿を見ることが出来る。

### (4) 流域の自然環境

流域の気候は、対馬海流の影響を受け四季の変化が緩やかで年平均気温が約7℃であり、また年平均降水量が約1,100mmと、道内の平均的な降水量である。

流域の地質は、緑豊かな針広混交林に覆われた山間部に占められる上流域と水田や放牧・牧草地が広がる中流域は、火山岩で構成されている。市街地が広がる下流域は海岸段丘で砂礫、砂岩となっている。

山間部の深緑に覆われた上流域は、エゾイタヤシナノキ群落などが山地から河岸にかけて繁茂しており、溪流沿いには河畔林が覆い被さるように繁茂している。溪流の瀬にはサクラマス、淵にはアメマスやシベリアヤツメなどが確認されている。

山間部を抜け谷底平野に広がる水田・畑、放牧地（軽種馬）がある中流域は、山林迫る狭い農地の中を、大小様々に蛇行しながら流下している。山地には上流域と同様の植生のほかにカラマツ植林が見られる。河岸はヤナギ類、ミズナラーカシワーコナラ群落で覆われており、オオジシギ、カワセミなどが生息している。水際にかけてはアキタブキ、オオイタドリ、オオヨモギなどが繁茂しており、小落差によって発生した瀬や淵にはカワヤツメ、ウナギ、エゾウグイ、イバラトミヨなどが生息している。周辺の山から沢水が流入しているたまりではエゾサンショウウオが確認されている。

農耕地から市街地へと変わる下流域は、川幅も広くなり、大きく蛇行しながら比較的緩やかに流下している。その河岸はヤナギ・ケヤマハンノキ群落などを主体とする河畔林が形成されている。大きな蛇行部の深みにはウグイ、河岸に堆積した砂泥部にはドジョウ、河口の砂礫にはエゾハナカジカが生息している。

水質については、日高門別川及び支川において、生活環境の保全に関する環境基準の類型指定を受けていないが、平成14年度の調査結果において、下流市街地の門別橋（国道橋）地点で、BOD75%値が2.1mg/lとB類型に相当しており、中流域では黄金橋地点で1.7mg/lとA類型に相当している。

## (5) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

河川の総合的な保全と利用に関する基本方針は、水害発生の状況、治水事業の現状、河川の利用状況ならびに河川環境を考慮するとともに、既存の利水施設等の機能維持に十分配慮し、水源から河口まで一貫した計画のもとに、河川の総合的な保全と利用を図るものとする。

災害の発生の防止又は軽減に関しては、日高門別川流域の社会・経済的な位置づけと道内の他河川とのバランスを図りつつ、河道の掘削等により河積を拡大させ計画規模の降雨による洪水の安全な流下を図るものとする。

整備途中段階における施設能力以上の洪水や計画規模を上回るような洪水に対しては、迅速な対応が可能となるよう、水防管理者等の関係機関に対して河川情報等の伝達体制の整備やハザードマップ作成の支援を行い、洪水被害の軽減を図るものとする。

河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関しては、農業用水として多く利用されている状況を踏まえ、利水者等の関係機関との情報交換など連携を図りながら、適正かつ合理的な水利用が図られるよう努める。また、流況等の河川状況の把握を継続しながら、現況の良好な水質及び良好な動植物の生息・生育環境など、水環境の維持・保全に努めるとともに、地域住民と一体となった河川愛護を図るものとする。

河川環境の整備と保全に関しては、自然環境や河川の利用状況等について、今後とも定期的に調査を実施し、豊かな川の流れに育まれてきた多様な動植物の生息・生育環境に配慮しながら整備と保全を行うものとする。河川改修の実施にあたっては地域の意見も踏まえつつ、治水上支障のない限り河畔林の保全を行うなど、治水と環境が調和した後世に残すべき良好な河川環境となるよう考慮するものとする。

景観に関しては、のどかな田園風景やサラブレッドが牧草を啄む姿、颯爽と駆ける放牧風景などと河川が一体的に調和するように、自然豊かな川づくりを行い、地域住民にとって昔ながらの風景が保たれるよう配慮するものとする。なお、実施にあたっては、施設の配置や材料などに十分配慮するとともに、地域住民との連携を密にしながら、長期的な視野にたって着実に実行し、生活に身近で親しみやすい水辺空間となるように努めるものとする。

河川の維持管理については、災害の発生の防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持、河川環境の整備と保全等の総合的な観点から、必要な措置を講ずるなど、適切な実施に努めるものとする。

また、河川に関する情報を流域住民に幅広く提供、共有することなどにより、河川と流域住民との連携、河川に対する愛護精神の育成、環境教育の支援並びに住民参加による河川管理を推進するものとする。

なお、以上の実施にあたっては、地域住民や各分野の専門家の意見を踏まえながら、河川の総合的な保全と利用に努めるものとする。

## 2. 河川の整備の基本となるべき事項

### (1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

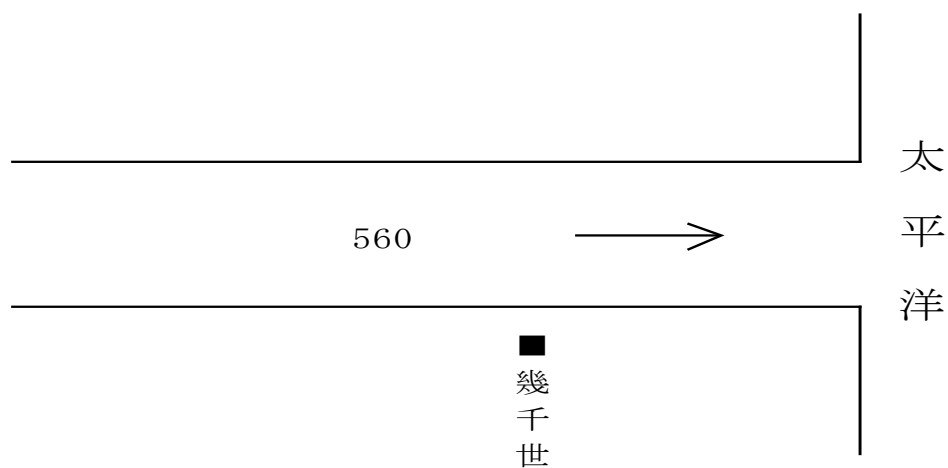
基本高水のピーク流量は、平成4年8月の既往洪水を考慮して、幾千世基準地点において $560\text{m}^3/\text{s}$ とし、全量を河道へ配分する。

基本高水のピーク流量一覧表 (単位： $\text{m}^3/\text{s}$ )

河川名	基準地点名	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
日高門別川	幾千世	560	—	560

### (2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

計画高水流量は、幾千世基準地点において $560\text{m}^3/\text{s}$ とする。



凡例：■基準地点  
単位： $\text{m}^3/\text{s}$

日高門別川計画高水流量図

### (3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は、次表のとおりとする。

主要な地点における計画高水位及び川幅一覧表

河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 T.P.(m)	川幅 (m)
日高門別川	幾千世	3.2	+9.78	80

T.P.: 東京湾中等潮位

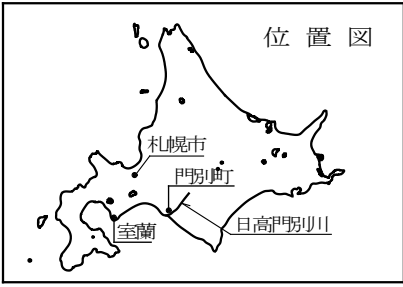
### (4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

日高門別川水系における水利用としては、農業用水として約 1.06m<sup>3</sup>/s が水利用されているものの過去に渇水被害等が生じた事例はない。また、豊富な魚類が生息するなど水質の良好な水環境を呈している。

日高門別川水系における流水の正常な機能を維持するための必要な流量については、今後、流況等の調査を引き続き行い、利水の現況、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮して定めるものとする。



# 日高門別川流域概要図



凡例	
■	基準地点
—	流域界
---	市町村界
]	法区間

